



『塩を食う女たち 聞き書・北米の黒人女性』

藤本和子 岩波書店／岩波現代文庫(文芸)

本館	請求記号：X/080/I95B/303	資料ID：701604449
神田分館	請求記号：/316/F62	資料ID：701633232

国際コミュニケーション学部教授 ハーン 小路 恭子

聞き書きという手法があります。インタビューを通して対象の語る言葉を書きとめ文字に起こすものです。記録やノンフィクションで長く用いられてきた手法ですが、水俣病被害者らに話を聞いた石牟礼道子や、女性炭鉱労働者たちの語りを書き起こした森崎和江らが、それを文学的な表現に高めました。彼女たちの残した仕事をグローバルな文脈で引き継いだのが、翻訳者の藤本和子です。1980年代のこと、アメリカ在住の藤本は黒人女性たちの語りに魅入られ、彼女たちが暮らす南部に赴き話を聞きます。突撃取材に近い形ですが、女性たちは鷹揚に藤本を歓迎し、豊かな声を聴かせてくれます。60年代の公民権運動からブラック・パワーの時代まで、南部に押し寄せた大きな社会的変化、女性たちの抱えた苦難とそれを乗り越える生命力、そのすべてが藤本の聞き書きを通して鮮やかに蘇ります。本書の面白さは、藤本自身が単なる透明な聞き手としてはふるまっていないことでしょう。日本の共同体のある種の息苦しさを離れてアメリカに来た彼女は、他者の声に触れることを通して自分自身の声を探しています。「この聞き書を記したわたしという者は、他者の理解ということを経験として考えているようだ。自らを生み出すためのプロセスの一側面であると」（252頁）。声を通じた異文化理解の書として、ぜひ手に取ってほしい一冊です。